

連載

シリーズ

わんにゃブルな 健康最前線



わんちゃん、ねこちゃんの健康について、獣医さんから専門的にお話しいたします!

「最近、目やにが多い」



京都中央動物病院
院長 獣医師
むらた ひろし
村田 裕史 先生

毎年、10月10日は目の愛護デーです。元気になっているわんちゃんやねこちゃんの目をじっくり観察してみてください。白くなってきた、ちょっと赤いな、あるいは目やにが多いなど、そんな異常に気がつくかもしれません。今回は、この目やにに増える病気について解説します。

「最近、目やにが多いけど」

このような理由で診察をうけるわんちゃんが以前より増えているような気がします。

目やにが多くなる原因はたくさんありますが、その中でも特に多いものはKCS（乾燥性角結膜炎）と言われるドライアイです。これが増えて

いる理由は様々だと思えますが、以前よりエアコンが使用されている環境にすることが増えたからかもしれません。ドライアイは涙の量が減ることにより、粘り気が高い目やにが出ます。そして、眼球が乾燥することにより角膜の表面に炎症が生じたり、感染が生じたりすることにより目に不快感が生じる疾患



です。

このKCSを診断するのは比較的シンプルです。1分間あたりの涙の量を測定し、減少していることを確認します。この診断はSTT（シルマーティアーテスト）といって涙の量を測定する検査紙を用いておこないます。このときに注意する点としては病院を受診する前に、





①目薬などをささないこと。
②目の周囲を洗浄して目やにを除去しないこと

です。この2点に注意することで正しい測定値を得ることが出来ます。

このKCSの治療としては、実は80%の症例で有効な特效薬があります。この薬は免疫抑制剤でサイクロスポリン目軟膏です。この成分が涙の量を増やす効果があります。

最初は1日に2回で始めて経

過を観察しながら状況に応じて1日に1回から隔日投与に減量していきます。完全に目軟膏をやめると再発するケースが多いため、継続する必要があります。このサイクロスポリンが有効ではない場合、頻回にヒアルロン酸点目を投与したり他の治療を併用したりすることになります。また、このサイクロスポリンを使用する前には、目に感染があったり、潰瘍があったりする場合は先に治療をしておかないといけません。

有効な予防はわかっておりませんが、犬種としてはパグ、シーズー、チワワ、アメリカンコッカースパニエルなどを多く診察します。これらの犬種は目が大きいのでそれだけ角膜の露出が増えることからKCSになりやすいと考えられています。これらの犬種で目やにが多い場合は病院を受診し、涙量を測定してもらうことが大切です。KCSは初期から治療

することでサイクロスポリンへの反応が良いため、予後も期待できます。逆に末期ではサイクロスポリンへの反応が悪くなり、頻回目薬を投与しないといけないケースが出てきます。このような状況では治療の反応が悪いだけでなく、炎症や感染が重度であり角膜潰瘍が重度になり、穿孔し眼球が破裂したりすることもあります。このように非常に進行した重症ケースを診察することもあるため注意が必要です。

また、目に被毛がたくさん入っているケースがあります。この場合、毛が毛細管現象で涙の水分を吸い取ってしまうこと、また、感染の原因になることもあります。目の中に毛が入っている場合、短くカットしておくことも効果的です。

最近、寝起きに目やにが多いなど感じた場合、一度、涙の量を測定してもらうため動物病院に相談してみてください。

〈お問い合わせ〉
京都中央動物病院

電話・FAX

075-821-1020

京都市下京区柿本町582-3
9:00~20:00

